

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社デンソー(仮称)新厚生セン	階数	地下0階地上6階
建設地	愛知県刈谷市昭和町一丁目1番地	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	207 人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年
建物用途	事務所・集会所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年4月 予定	評価の実施日	2019年2月18日
敷地面積	5,373 m ²	作成者	日建設計 鈴木豊一郎
建築面積	2,420 m ²	確認日	2019年2月22日
延床面積	9,899 m ²	確認者	株式会社 日建設計 村井達也



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 85%
③上記+②以外の 85%
④上記+ 85%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

3.5

③敷地内の緑化

3.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)

36.3 %

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)

7.1 %

②資源の有効活用

3.2

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

3 対応性・更新性				3.4	0.29			-	3.4	
3.1 空間のゆとり		②		4.4	0.31			-		
1 階高のゆとり				階高4.2m以上確保	5.0	0.49			-	
2 空間の形状・自由さ				耐力壁なし、コアを東側外周に集約	4.0	0.51			-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性					3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性					3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性					3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性					3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性					3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性					3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-		
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30			-	3.1	
1 生物環境の保全と創出		独自③		3.0	0.30			-	3.0	
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			敷地内緑化 バルコニー 壁面緑化	3.5	0.30			-	3.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50			-		
3.2 敷地内温熱環境の向上			建築設備に伴う排熱を10m以上の屋上階から放出する計画	4.0	0.50			-		
LR 建築物の環境負荷低減性									3.3	
LR1 エネルギー					0.40				3.5	
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.77 複層ガラスの採用	5.0	0.29			-	5.0	
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20			-	3.0	
3 設備システムの高効率化				3.0	0.30			-	3.0	
4 効率的運用				3.0	0.20			-	3.0	
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-		
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-		
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-		
集合住宅の評価				-	-			-		
4.1 モニタリング				-	-			-		
4.2 運用管理体制				-	-			-		
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.2	
1 水資源保護				3.0	0.15			-	3.0	
1.1 節水				3.0	0.40			-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-		
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-		
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-		
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.63			-	3.4	
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		3.0	0.20			-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	廃プラスチック複合デッキ:ABC商会アースデッキ	3.0	0.20			-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	乾式の壁を採用し、躯体と仕上げの別が可能	5.0	0.24			-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-		
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-		
1 消火剤				-	-			-		
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			-		
3 冷媒				3.0	0.50			-		
LR3 敷地外環境					0.30				3.2	
1 地球温暖化への配慮		①	CO2排出量は一般的な建物と同様に設定	3.5	0.33			-	3.5	
2 地域環境への配慮				3.0	0.33			-	3.0	
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-		
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50			-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25			-		
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-		
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-		
3 交通負荷抑制		独自	敷地全体として、駐車場、荷捌き場所の確保、導入路の配慮を行う	4.0	0.25			-		
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			-		
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33			-	3.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-		
1 騒音		独自		3.0	1.00			-		
2 振動		独自		-	-			-		
3 悪臭				-	-			-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-		
1 風害の抑制				3.0	0.70			-		
2 砂塵の抑制				-	-			-		
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-		
3.3 光害の抑制				3.7	0.20			-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			屋外広告物照明を行っていない	4.0	0.70			-		
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-		

重点項目スコアシート

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

株式会社デンソー(仮称)新厚生センター

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:36.3%/建物緑化:7.1%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・社員共有の居間として、ランダムに配した多層のテラスが外部の人々を誘引し、魅力ある活動や賑わいを引き出すような計画としている。 ・南東の5層吹き抜けの立体的な空間は各階のつながりを高める計画としている。 <ul style="list-style-type: none"> ・テラスの一部を屋上緑化、西側壁面には緑のカーテンを設け、敷地内の植栽と連続させて緑の景観を作り出す計画とした。
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・3F組合執務室はEVホールに面してコミュニティスペースを設け、フロア間のコミュニケーションを誘発する。 ・執務室、コミュニティスペースを吹き抜けに隣接させ、東、北側をガラス張りとする事で中の様子がうかがえる開かれた設えとしている。
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・組合執務室は直天井とし、3.0m以上の天高を確保し、開放的な計画としている。 ・設計時よりコンセプトをもとに内観パースを作成し、室内イメージを確認している。 ・組合執務室はOAフロアを設置している。
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・南側4号館地下駐車場へのスロープ北側には植栽を配して、豊かな歩行空間をつくる計画をしている。 ・西側には4号館から続く緑地帯をつなげ、地域に開かれた緑道を計画している。 ・テラスの一部を屋上緑化、西側壁面には緑のカーテンを設け、敷地内の植栽と連続させて緑の計画を作り出す計画としている。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・個別空調、全熱交換器の採用 ・LED照明の採用
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・内装はLGSを採用。階高を確保し、OAフロアの設置、直天井
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・北側隣地との離隔を十分にとり、日影、プライバシーに配慮した配置計画 ・北側の隣地境界には植栽を配して隣地へのプライバシーに配慮している。 ・敷地内で計画的に廃棄物処理を行い、ごみの減量化、たい肥化を計画している。
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>